

前後期に分けて8名の作家を紹介

「ポーラ ミュージアム アネックス展2018 前期」

若手アーティストによるグループ展 2月23日(金)より



ポーラ ミュージアム アネックス(中央区銀座1丁目)では、今年も前後期に分けて「ポーラ ミュージアム アネックス展2018」を開催します。前期となる今回は「無明と可視」をテーマに2018年2月23日(金)から3月18日(日)まで開催します。

本展では過去に公益財団法人ポーラ美術振興財団での若手芸術家の在外研修に対する助成において、採択されたアーティストの作品を展示します。ポーラ ミュージアム アネックスでの発表をきっかけに、今後の活動に活かしていただきたいという趣旨から開始致しました。今回もポーラ美術館 木島俊介館長 監修のもと、合計8名のアーティストの作品をご紹介します。さらに前期展の4名の作家については、東京国際フォーラムで開催される「アートフェア東京2018」にも出品予定です。

若手芸術家の在外研修に対する助成とは、公益財団法人ポーラ美術振興財団が毎年実施している活動のひとつで、35歳以下のアーティストを対象に海外での研修を援助し、日本の芸術分野の専門性を高めていこうとするものです。

|| 展覧会概要 ||

《ポーラ ミュージアム アネックス展2018 前期》

展覧会名：ポーラ ミュージアム アネックス展2018 - 無明と可視 -

会 期：2018年2月23日(金) - 3月18日(日) 【24日間】 *会期中無休

会 場：ポーラ ミュージアム アネックス (〒104-0061 中央区銀座1-7-7 ポーラ銀座ビル3階)

主 催：公益財団法人ポーラ美術振興財団 / 協 力：シャンパーニュ ポメリー

開館時間：11:00 - 20:00 (入場は19:30まで) / 入 場 料：無料

U R L： <http://www.po-holdings.co.jp/m-annex/>

《アートフェア東京2018》

会 期：2018年3月8日(木)~3月11日(日) ※3月8日(木)は招待制

会 場：東京国際フォーラム・ホールE及びロビーギャラリー (東京都千代田区丸の内3-5-1)

入 場 料：1DAYパスポート 3,500円(税込) (小学生以下は、大人同伴の場合に限り入場無料)

※アートフェア東京2018 問い合わせ先：一般社団法人アート東京 TEL：03-5797-7912 <https://artfairtokyo.com/>

左：岡田杏里「密林の声」2016年 素材:キャンバス,アクリル絵の具 / 右：松橋萌「Welt des kleines」2016年 素材:陶器,アクリル樹脂,木材

【リリースに関するお問い合わせ】株式会社ポーラ・オルビスホールディングス コーポレートコミュニケーション室
info-annex@po-holdings.co.jp TEL 03-3563-5540 / FAX 03-3563-5543

【読者からのお問い合わせ先】ポーラ ミュージアム アネックス TEL 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

Ⅱ 監修者プロフィール Ⅱ

木島 俊介：ポーラ美術館館長。1939年鳥取県生まれ。慶応義塾大学文学部卒業、美学・美術史専攻。フィレンツェ大学、ニューヨーク大学大学院、同美術史研究所に学ぶ。群馬県立近代美術館館長および群馬県立館林美術館館長、共立女子大学教授等を務め、現在、同大学名誉教授、東急文化村ザ・ミュージアム プロデューサー。主要著書は、『美しき時禱書の世界』（中央公論社）、『アメリカ現代美術の25人』（集英社）、『女たちが変えたピカソ』（中公文庫）、『名画が愛した女たち 画家とモデルの物語』（集英社）、『クリムトとウィーン』（六耀社）、翻訳書に、『ヨーロッパの装飾芸術 全3巻』（中央公論新社）など。

Ⅱ 監修者コメント Ⅱ

『ポーラ・ミュージアム・アネックス展』は、公益財団法人ポーラ美術振興財団が、1996年以来実施している「若手芸術家の海外研修助成」を受けられた方々の研究の成果をご披露いただく展覧会として毎年開催されてきており、今回で12回展を迎えることとなる。

当展覧会のタイトルには「無明と可視」という言葉が与えられているが、このイメージに沿って出品作品が選ばれているわけではなく、監修者は4人のアーティストに出品依頼を行ったままであって、出品作品はあくまでも各アーティストの自由な創意に委ねられ、各自の創作行為によって実現したものである。作品が一堂に会してみると、それぞれのアーティストの意識の内奥は極めて謎めいて神秘的で、他者にとっては多様な可能性が潜在する未知の器と感ぜられる。これを「無明」と言語化してみた。さようであれば、それぞれのアーティストがここに創生させている作品は、潜在する未知の、芸術意識の、その本質の「可視」化現象と言えるのではないか。私たち鑑賞者の興味は大いに深まるのである。

Ⅱ 公益財団法人ポーラ美術振興財団の活動概要 Ⅱ

公益財団法人ポーラ美術振興財団では美術分野などの若手芸術家及び美術の専門職員に対する助成活動を行っています。主に美術分野における研究活動テーマを広く一般から募集し、有識者で構成される選考委員会によって採択・助成し、日本文化の向上、発展に寄与することを目的に以下の活動を行っています。

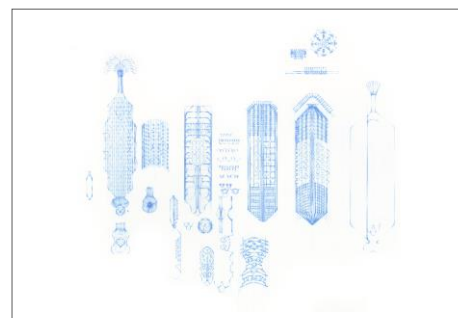
【参考資料：平成29年度助成採択内容】

	(採択数)	(助成金額)
(1)若手芸術家の在外研修に対する助成	15件	4,402万円
(2)美術館職員の調査研究に対する助成	12件	2,136万円
(3)美術に関する国際交流の助成	12件	2,165万円

|| 作家プロフィール ||

堀川 すなお Sunao HORIKAWA

1986年 大阪の発明家の家系に生まれる
2008年 クーパーユニオン芸術大学 交換留学生（ニューヨーク）
2010年 京都精華大学 芸術学部造形学科洋画専攻 卒業
2012年 京都市立芸術大学美術研究科絵画専攻油画分野 終了
2014年 大阪府立江之子島文化芸術想像センターにて滞在制作
2015年 公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修員（ニューヨーク）



「バナナ/近い,(29),女 no.1」 2015年
素材：マイラーフィルム、色鉛筆

【主な展覧会】

2008年 「NEW WORK」 グレートホールギャラリー（ニューヨーク）
2012年 「VOCA展-新しい平面の作家たち 2012」 上野の森美術館（東京）
2013年 個展「クリテリウム 87 堀川すなお」水戸芸術館現代美術ギャラリー第9室（茨城）
2015年 個展「解釈と行為 SEEING AND PRACTICING」大阪府立江之子島文化芸術創造センターRoom2（大阪）
「京銀コレクションの15年」京都銀行 金融大学校 桂川キャンパス大ホール（京都）
「群馬青年ビエンナーレ 2015」群馬県立近代美術館（群馬）
2017年 「清流の国岐阜芸術祭 ~身体のゆくえ~」岐阜県美術館（岐阜）
「echo of the echoes」西武渋谷店 B館 8階 美術画廊・オルタナティブスペース（東京）

URL:<http://sunaohorikawa.com/>

牧田 愛 Ai MAKITA

1985年 千葉県生まれ
2008年 筑波大学芸術専門学群美術専攻洋画コース卒業
2013年 東京藝術大学大学院芸術学専攻美術教育研究科修了
2017年 公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修員（ニューヨーク）



「Matrix」 2017年
素材：キャンバスに油彩

【主な展覧会】

2013年 個展「Signs of Life」伊勢丹新宿（東京）
2014年 「第1回テラダ・アート・アワード」寺田倉庫（東京）
2015年 「第18回岡本太郎現代芸術賞」川崎市岡本太郎美術館（神奈川）
「Speak Soft, Listen Hard」Underground Gallery（マニラ）
個展「behave as a named existence」ラディウム・レントゲンヴェルケ（東京）
2016年 「クロニクル、クロニクル！」Creative Center Osaka（大阪）
2017年 個展「Gradation」Gallery Vask（マニラ）
「In Organic: Emerging Japanese Artists」在ニューヨーク日本総領事公邸（ニューヨーク）
「Silos」ART3 Gallery（ニューヨーク）

URL: <https://www.ai-makita.com>

松橋 萌 moe MATSUHASHI

1985年 埼玉県生まれ
2009年 多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻卒業
2015年 ドレスデン造形芸術大学ディプロム修得
2016年 公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修員（ドイツ）
2017年 ドレスデン造形芸術大学マスターコース在籍

【主な展覧会】

2009年 「PLAY ROOM」 NUNZUKA UNDERGROUND（東京）
「2nd art-icle preis 2009 in Asia」 東京画廊+BTAP（北京、クムサン）
2010年 「アートフェア東京」 NANZUKA UNDERGROUND（東京）
2013年 「HYPE」 geh8（ドレスデン）
2015年 「ディプロム制作展」 ドレスデン造形芸術大学（ドレスデン）
2016年 「How hard can it be」 Galerie Gebr. Lehmann（ドレスデン）
「to Wroclaw to Wroclaw」 ヴロツワフ現代美術館（ヴロツワフ）
「ART Cologne」 NANZUKA（ケルン）
2017年 「MAG HOME MinimalArtGallery」 REDBASE Foundation（ジョグジャカルタ）
「OSTRALE ビエンナーレ 11.」（ドレスデン）
「Herbstfärbung」 Erzhammer（アンナベルグ）

URL: <https://www.moematsuhashi.com>



「Mädchen im Wald」 2013年
素材：板紙、木材、アクリル

岡田杏里 Anri OKADA

1989年 埼玉県生まれ
2013年 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻 卒業
2014年 公益財団法人石橋財団国際交流油画奨学生（メキシコ、グアテマラ）
2016年 東京藝術大学大学院美術研究科壁画専攻 修了
2016年 公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修員（メキシコ）

【主な展覧会】

2014年 「居住する美」 INOAC 銀座並木通りギャラリー（東京）
「NUESTRA_ANUAL」 Taller Rufino Tamayo（メキシコ、オアハカ州オアハカ）
2015年 個展 「EL MUNDO ENRERADO EN MI CABELLO」
Taller Rufino Tamayo（メキシコ、オアハカ州オアハカ）
「石橋財団 国際交流 油画奨学生 成果報告展 vol.2」 東京芸術大学 立体工房（東京）
個展 「DESPERTARSE」 Liz Corporation&ART(GALLERY)（東京）
個展 「BOSQUE ANIMADO」 谷中ボッサ（東京）
2016年 「芸大・茨大・筑波大卒業修了制作選抜展 2016」 東海ステーションギャラリー（茨城）
「三越×芸大 夏の芸術祭 2016」 日本橋三越本店（東京）
個展 「EL MUNDO LLEGANDO A...」 Jardin de las esculturas（メキシコ、ベラクルス州ハラパ）
2017年 「いちほらアート×ミックス 2017」 月出工舎（千葉）
個展 「VOCES」 CAFE KALDI（メキシコ、チワワ州チワワ）
「石橋財団・東京藝大油画—海外派遣奨学生展」 東京藝術大学大学美術館 陳列館 1、2 階（東京）

URL: <http://anriokada.wixsite.com/anri-okada>



「砂漠の花」 2017年
素材：キャンバスにアクリル絵の具